

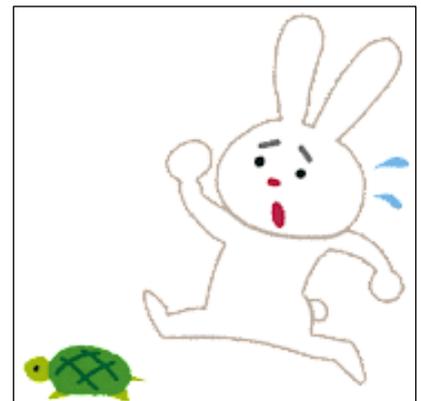
令和4年4月6日（水）

## 令和4年度 第1学期 始業式にあたって

佐賀県立唐津西高等学校 下村昌弘

- 全校の皆さん、おはようございます。下村昌弘です。
  
  - いよいよ新年度、新学期がスタートしました。おそらくここに集まっている皆さん一人ひとりには少しの緊張感と大きな期待感をもって今朝、登校してきたのではないのでしょうか。今の、こそばゆい、その気持ちを大事にしてほしいと思います。
  
  - 3年生のみなさんは成人を迎えますね。  
4月1日、新しい民法が施行されました。しっかり社会とつながったイメージを持って勉強してください。  
またその話は別の機会にしたいと思います。
- 
- さて、ここにいる皆さんは高校生活のほぼ全部を新型コロナウイルス感染への対策とともに過ごしてきたわけです。どうでしょうか、もう慣れてしまったかもしれませんが、どことなく窮屈な毎日が続いている感じではないでしょうか。
  
  - 昨年末、やや感染状況も落ち着いたかに見えましたが、その後、オミクロン株により、第6波が襲来し、そのおさまりも見ないまま、今また第7波かと思われるほど爆発的な感染者を連日出し続けています。
  
  - ウィズコロナと言われて2年が過ぎました。基本的な感染対策を継続しながら、できるだけ日常生活を取り戻そうと言われていますが、これまでの生活を完全に取り戻すことはもはや不可能で、むしろ新しい形の生活を開発しなければならないと思っています。
  
  - というのは、いろいろな制約がある中で、これまでやってきたことをそのままやろうと思っても土台それは無理な話だからです。「今はコロナ禍だからこれまでやってきた10のうち3つだけやりましょう。そのうちコロナもおさまるでしょうから我慢して」というのでは当然物足りないですね。コロナ禍も一向に収まりません。

- こういう状況だからこそ、これまでやってきた10のことはできないがゆえに、それに匹敵する新しいことを3つやりましょう」という話です。ライフ・シフト、あるいはパラダイムの転換とでもいうのでしょうか。現状維持ではなく、価値観の転換、そして行動改革です。
- その時に大事なものは何か。それは「何のために」という目的意識、つまり「目標」「目的」に沿って自分の頭で考えてみることです。
- 皆さんは今目標をもっていますか。皆さんにとって高校生活の目的は何ですか、目標や目的を持つことの大切さを2つのたとえで話してみます。
- 一つ目は「うさぎとかめ」の話です。「なんだ、そんな子どもっぽい話か」と思ったかもしれませんが、一緒に考えてみてください。
- うさぎとかめの話は皆さん知っていますよね。うさぎとかめのかけくらの話。歩みののろいかめは、ゴール手前で居眠りをしているうさぎを首尾よく追い抜いてゴールする、あのお話です。
- ではここで問題です。なぜかめはうさぎを起こしてあげなかったのでしょうか？
- ちょっと考えてみてください。あなただったら起こしてあげますか、どうしますか？かめはずるくないですか？勝つためにはこれしかないとも思ったのでしょうか？
- 私は、そうではないと思います。
- それはかめの視線を想像すれば分かります。かめはどこを見ていたのでしょうか？かめの視線の先にはうさぎの姿はなかった。かめが見ていたものは、そう、山の頂上、つまりゴールです。かめはゴール、いわば「目標」しか見ていなかったのだと思います。
- それに比べ、うさぎはどうでしょう。うさぎはどこを見ていましたか。うさぎは、かめのことばかりを気にしていた。つまり、うさぎは後ろを振り返ってばかりいたのではありませんか？
- まとめます。「目標をしっかりとって、そこから目をそらさないこと」。それが勝つコツです。どうです、いい話でしょ。(誰も言ってくれないので自分で言っています。)



○ では、もう一つ。北極星の話です。今度はちょっと難しい話です。論語の中に次のような言葉があります。

○ 「北辰の其所に居り、衆星の之に共ふがごとし」

○ 「北辰」とは北極星のことです。「衆星」とは「たくさんの星」の意味。全ての星は北極星を中心に回っています。理科で習いましたよね。



○ 「北極星が、あるべき場所にあれば、周りのたくさんの星々はそれに従って配置される」という意味です。北極星を中心に宇宙、コスモスは成り立っています。コスモスとは秩序ある世界という意味です。

○ 論語のこのフレーズはもともと政治の話ですから、「北極星」とは為政者の譬えで、優れたリーダーがいれば周りのスタッフや民衆たちはそれについていくという意味です。

○ しかし私はここで言う「北極星」を「目標」という言葉に置き換えることができると考えています。

○ つまり「目標を明確に持っているとそのらに向けてやるべきことはおのずと分かってくる」という話です。

○ 目標である一点がしっかりと定まっていると、全てのものごと、例えば、「勉強」や「部活動」「学校行事」「ボランティア活動」など、あらゆる自分のなすべきことが、迷いなくきちんと回っていくイメージです。

○ 逆に、この「北極星」(目標)が定まっていないと、周りの星たちはバラバラになってしまう、つまり、やるべきことが分からなくなってしまう。

○ あるいはいろいろやっている、がんばっているけど、いまいち成果が出ないといった感じでしょうか。それは一つの宇宙(コスモス、秩序ある状態)になりえていないからです。

○ では、まとめます。皆さん、新年度の初めに当たり、自分の目標をしっかりと立て、ブラさないで、しっかりと定めてください。そうすれば、おのずと自分のなすべきことが見えてきます。「意志あるところに道は拓ける」のです。

- 西高生のみなさん、この学校の魅力は何だと思いますか。校風はどんなところだと思いますか。
- これまで私は傍から西高生を見ていて端正・清楚で凛然としたさわやかな印象をもっていました。今度は内側からその魅力を感じていきたいと思っています。
- 全校の皆さん、「目標をもって凛然とがんばりましょう！」唐津西高の新しい年度の始まりです。はりきってがんばりましょう。